

**題名：2016年2月韓国学研究部門ワークショップ報告書**

**氏名：金東明**

**所属：東京大学大学院総合文化研究科博士課程2年**

**専攻：国際社会科学専攻（2016年3月現在）**

現在、日本・アメリカ・韓国から公開された外交文書に基づいて、1970年代における3ヶ国の外交関係について研究している。そのため、外交文書の発掘や検索方法、さらに入手した外交文書をどのように分析し、論文に反映するののかについて最近、悩んでいた。そういうこともあり、韓国を代表する記録館を訪問して各機関の専門家の方々から説明を受けることができた今回のワークショップは、私にとって非常に貴重な経験であった。

まず、国家記録院では、最初に資料の所蔵状況などの説明があった。もっとも印象に残ったのは、各政府機関から移送された文書の処理過程や保管の仕方について実際に書庫まで行って説明を受けたことである。さらに、古文書を復旧する過程を専門家の先生から説明を受けながら、その過程を直接見ることができた。実際に文書を管理している所で、作業が行われている現場を経験することは、またとない経験であろう。

次に、外交文書のみならず、朝鮮王朝時代から現代に至るまで膨大なデータベースを構築している国史編纂委員会が印象に残った。同委員会の推進している、あるいは完了した事業については、訪問する前にホームページで調べてあったので、すでに知っているつもりだった。ところが、事前調査で探せなかった他のデータベースを検索する方法を専門家の先生から教わり、実際に自分で検索しながらその方法を習得することができた。朝鮮王朝時代から植民地時代を経て、現代に至るまでの文書をデータベース化しており、その作業が今も続いているのは驚くべきことであった。

第三に、国民大学日本研究所における柳美那先生の「資料検索の方法と練習」という講義でも非常に多くのことを学んだ。柳先生は自身の日本留学時代の経験を踏まえ、論文を執筆した時どのように外交文書を発掘したのかについて講義をされたのであるが、それに加え、発掘した文書や資料をどのように自分の論文の中に反映するか、またこうした文書や資料をどう用いて、どう分析するのかについて触れたのは、まさに現在自分が悩んでいることであったため、非常に学ぶところの多い貴重な講義であった。

最後に、ワークショップの1日目に訪問した世宗研究所は、もともと全斗煥元大統領の意思により創設された研究所であったが、現在は独立的な機関としてかなりの研究の自由が認められているなか、国際政治・国際情勢に関する研究に取り組んでいる。世宗研究所では、現在の韓国における研究状況を知ることができたことから、意味深い訪問であったといえる。